

第 71 回東葛しぜん研修会

雨にも負けず…意外にタフなコケの暮らし

内久根 深雪（船橋市）

日 時：2015.3.3（火）10時～12時30分 天気：曇り

場 所：21世紀の森と広場（松戸市）

担当指導員：内久根、渋谷

参加者：指導員 16名+一般 1名

～3月3日ひな祭りの日にヒナノハイゴケを見た！～

「雨にも負けず…意外にタフなコケの暮らし」を覗いてみようのテーマのもと、何時雨粒が落ちてもおかしくない中での観察会となりました。当初1月に計画したのですが、雪が降るとの天気予報で延期し、今回の実施となりました。厳しい時期の観察会の方がコケのタフさを感じられたのかも…？早朝少し雨が降った事もあり、地面の上で様々な緑色を示す元気なコケ達との遭遇を皆さん楽しんでいただけた事と思います。

先ずパークセンターで、コケの暮らし方や体の仕組みなど、資料を基に皆で確認しました。【細胞の中に葉緑体をもつていて光合成をしている】【胞子で増える】【胞子が発芽し原糸体⇒配偶体(私たちがよく見るコケ)へと成長する】タンポポやサクラと異なり【根(水やミネラルを地中から吸収する)や維管束(導管や師管)を持たない】【変水性:乾いたら休み。水分があれば元気】等々。更にプラスチックのカップに入った生のコケをルーペやファーブルを使って室内で観察しました。本当に根が無いの？ではゼニゴケの裏に沢山ある根のようなものはなに？体の造りはどうなっているの？胞子はどこにどうやってできるの？など暖かい室内でならじっくり観察する事も苦になりません。大まかなコケのイメージを掴んでから公園に暮らしているコケに会いに行きました。

3月になったばかりの公園で緑を探そうとすると、いやでも地面を覆っている緑のカーペットに目が行きます。眼を凝らして見ると地表を覆っているコケは1種類ではありません。胞子が沢山詰まつた蒴(さく)と呼ばれる小さな綿棒のような形のものが、マット状のコケから伸びだしています。公園の樹の木肌に何かついているものがあります。早速皆でルーペを使って観察です。小さな濃い緑の葉が茎を取り巻き、その茎の先にオレンジ色の蓋を持った高さ2ミリに満たないビール樽のような物が見えます。ヒナノハイゴケです！クチベニゴケと呼ばれる事もあります。(むしろこの呼び方の方が覚えやすいかも)、こちらの木肌には黒くて細い紐のような物がへばり着いています。霧吹きで水分を与えての観察です。ルーペを使ってやっと認識できるくらいの小さな葉が規則正しく2列に並んでいます。茎に沿ってさらに小さな葉も1枚あります。ヤスデゴケの仲間です。コケ植物は大きく蘚類(せんるい)・苔類(たいるい)・ツノゴケの3つに分けられますが、今見ている葉の並び方は苔類です。

ギンゴケも皆で観察しました。銀色に見えるのでギンゴケ、小さなピンクッションのような塊もルーペで覗くと林立するモダン建築のビル群のようです。

今回の観察会では多分 300m も歩かなかつたと思いますが、アリになったつもりで足元をじっくり観察してみると、こんなにも身近に不思議な世界があることを楽しめたのではないでしょうか。



こんな所にもコケが見られますね